

## 授業改善の成果と課題

教育学研究科・白松 賢

### 1. 今年度の授業内容

本授業では、教職への一体感を目指して、教育法規、教育原理、教育史、教師の生活世界についての概論やディスカッションを通して、基礎的知識・理解を深める。また自己の適性について自己評価する。具体的な内容は以下の通りである。

- 第1回：イントロダクション ―教師の職業世界― (遠隔 A 非同期)
- 第2回：教師の職業的世界 2― (遠隔 A 非同期)
- 第3回：教師の使命感―学校の誕生 (遠隔 A 非同期)
- 第4回：教師の使命感 2―不祥事と法令から教職を捉え直す (遠隔 A 非同期)
- 第5回：教師の使命感 3 ―子どもの誕生 (遠隔 A 非同期)
- 第6回：教師の使命感 4 ―熱血教師の系譜と教師教育学の歴史 (遠隔 A 非同期)
- 第7回：教師の使命感 4 続 ―熱血教師の系譜と教師教育学の歴史 (遠隔 A 非同期)
- 第8回：教師の資質能力向上が求められる社会背景 (遠隔 A 非同期)
- 第9回：学習指導要領と教師の仕事 (遠隔 A 同期 : Teams)
- 第10回：チーム学校と同僚性 (ハイ

ブリッド型 : Zoom)

- 第11回：現代の教師が置かれている状況と求められる資質能力 (ハイブリッド型 : Moodle)
- 第12回：収斂的思考の段階のマインドマップを作ろう (ハイブリッド型 : Moodle)
- 第13回：先生の仕事と生活を理解しよう (遠隔 A 同期: Teams)
- 第14回：先生と仕事の生活をまとめよう (遠隔 A 非同期)
- 第15回：まとめ ―教職をめざした学習ロードマップを創ろう― (ハイブリッド型 : Teams, Zoom)

### 2. 遠隔授業への対応

今年度は、新型コロナウイルスの問題から、前期、急遽、遠隔授業での対応を余儀なくされた。その中で、遠隔 A (同期型・非同期型)、遠隔 B (課題型) の三つが提示された。遠隔 B の対応は、原則として学生に対して望ましくないと考え、遠隔 A での対応を考えた。当初、学生のネット環境がどのような状況かわからないため、いつでも、学習が可能な遠隔 A (非同期) を、Moodle を利用して実施し、学生への配慮を行うこととした。

5 月末の段階で、Moodle での課題等が提出されてない学生には、個別にメールをするとともに、参加確認できな

表1 教職基礎論DP対応調査

		とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	無関係である	計
DP1知識・理解:教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。	H28	64.2%	31.8%	4.1%	0.0%	100.0(148)
	H29	54.4%	38.8%	6.9%	0.0%	100.0(160)
	H30	61.4%	35.4%	2.5%	0.6%	100.0(158)
	R1	65.8%	31.0%	3.2%	0.0%	100.0(155)
	R2	55.6%	40.5%	3.9%	0.0%	100.0(153)
DP2技能:教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。	H28	43.9%	47.3%	8.8%	0.0%	100.0(148)
	H29	45.0%	41.9%	12.5%	0.6%	100.0(160)
	H30	39.2%	43.0%	10.1%	1.3%	100.0(158)
	R1	41.3%	49.0%	9.0%	0.6%	100.0(155)
	R2	35.9%	51.6%	12.4%	0.0%	100.0(153)
DP3思考・判断・表現:教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	H28	47.3%	45.3%	7.4%	0.0%	100.0(148)
	H29	43.1%	48.1%	8.8%	0.0%	100.0(160)
	H30	41.8%	51.9%	6.3%	0.0%	100.0(158)
	R1	52.3%	40.6%	6.5%	0.6%	100.0(155)
	R2	43.8%	47.1%	9.2%	0.0%	100.0(153)
DP4興味・関心・意欲、態度:教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。	H28	67.6%	29.7%	2.7%	0.0%	100.0(148)
	H29	65.6%	29.7%	2.7%	0.0%	100.0(160)
	H30	67.1%	30.4%	1.9%	0.6%	100.0(158)
	R1	65.8%	32.9%	0.6%	0.6%	100.0(155)
	R2	65.4%	34.0%	0.7%	0.0%	100.0(153)

い学生に対しては、学担へその旨連絡を行った。

また教育学生支援会議のアンケート結果から、学生は概ね、遠隔授業を受けられる環境が整っていることを確認してから、6月には、Teams や Zoom による同期型授業を開始した。その際、グループワークやディスカッションが必要となる場合 Zoom を利用し、1年生で入学後、コミュニケーションが取れていないことを鑑み、積極的に活用することとした。

さらに、今後 IT 教育の技術を学ぶ必要性から、Padlet や Miro を活用した双方向型の遠隔授業の技能を教えながら、学習に活用するようにした。しかしながら、学生の家庭のネット環境の不安定さから、遠隔同期型での授業については、多くの課題も明らかとなった。

### 3. DP 対応調査の結果から

本授業では、DP1「教育と教職に関する確かな知識」とDP4「関心、意欲、態度、教師としての使命感や責任感」を主に対象としている。DP1、DP4の

いずれの項目も、5年間にわたって、50%を超える受講生が「とてもそう思う」、95%を超える受講生が「そう思う」と回答していることから、遠隔化となっても、ほぼ例年並みの成果が得られたと考えられる。

平成28年度より5年間にわたり、授業のほぼねらい通りの効果を達成していたが、DP1、DP2、DP3に関しては、「とてもそう思う」が例年に比較し、10%弱の低下があり、完全なる満足度を与えるまでには至っていない。その中でも、DP4については、例年とほぼ同じ結果となっており、本授業において、教師の立場で、大学での学修のロードマップを考えさせる講義としての役割は十二分に果たしていると考えられる。また、この状況での講義であっても、DPに無関係と捉える学生がいなかったことも、大きな成果であった。

今回試したハイブリッド（ブレンド型）は、次年度も継続して実施する予定であるので、今後、学生のネット環境の向上に伴い、これらの成果の変動を分析し、検討し続ける必要があると考える。